

[トピックス]

イチゴ炭疽病^{たんそ}の薬剤感受性を調査しました！

イチゴ炭疽病は、育苗期に発生して枯死による苗不足の原因となるだけでなく、感染株を本圃に持ち込むことで、その後の枯死などを引き起こし、収量低下につながる重要な病害です（写真）。

本病の効果的な防除には、耕種的防除に加え、化学農薬による予防散布が行われています。しかし近年では、薬剤耐性菌の発生により、防除効果の低下が懸念されています。そこで、生産現場における効果的な薬剤防除に資するため、県内 19 ほ場から採取したイチゴ炭疽病菌 50 菌株について、薬剤感受性調査を実施しました。その結果、ベノミル、ジエトフェンカルブ、アゾキシストロビンに対しては、多くの菌株で耐性が認められました（図）。

以上のことから、イチゴ炭疽病の効果的な防除のためには、作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行うことが重要と考えられました。



写真 イチゴ炭疽病発病株 育苗（左） 本圃（右）

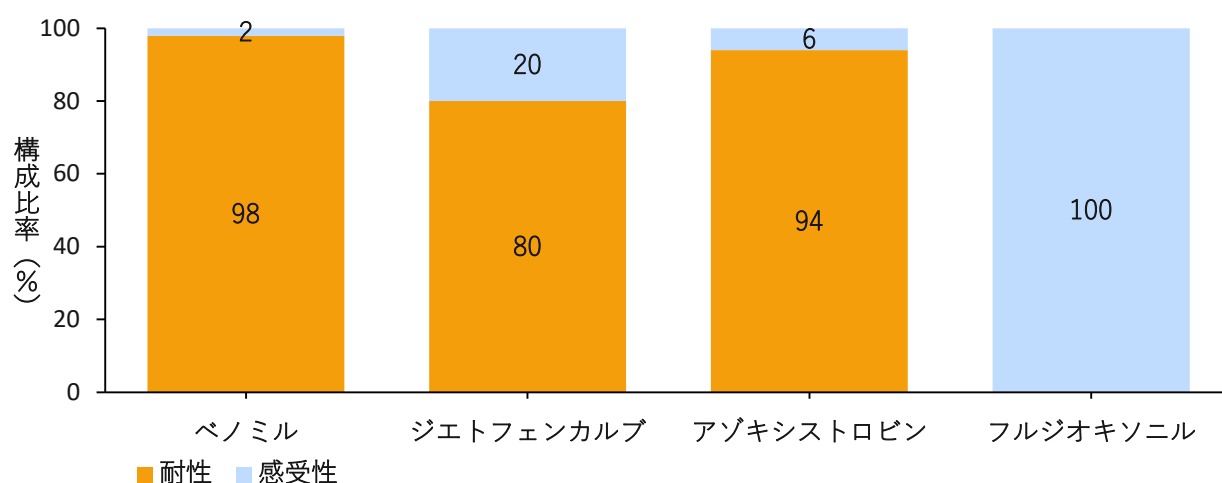


図 イチゴ炭疽病の各種薬剤に対する耐性菌の構成比

(環境技術指導部防除課)